

名古屋城本丸石垣発掘調査について

資料4

発掘調査内容一覧

- ・内堀内に8か所調査区を設け、堀底の堆積状況を確認する。
- ・内堀外側、大天守台の石垣裾部を発掘し、根石の状況を確認する。

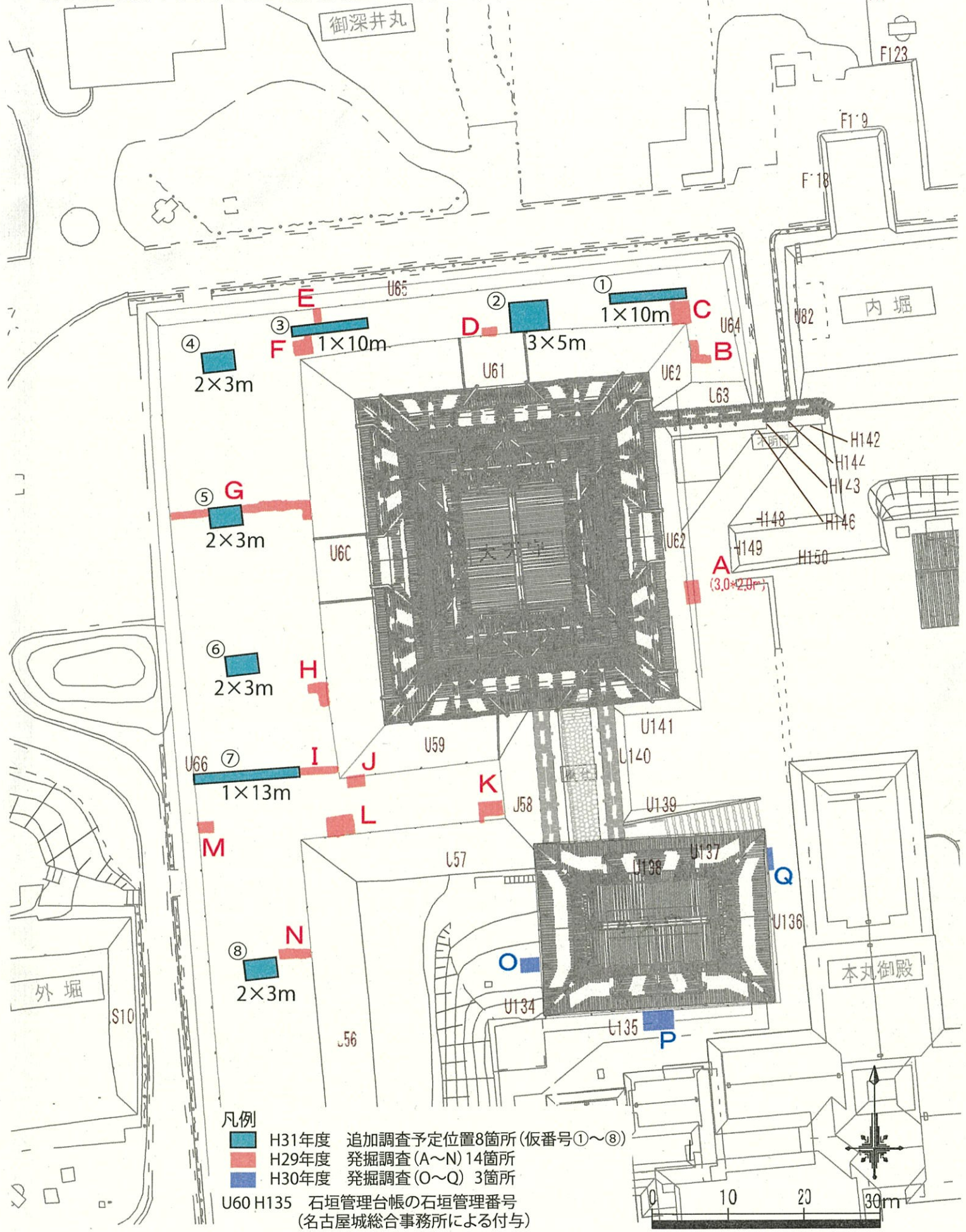
調査区名	調査規模			調査箇所	調査目的	掘削方法	調査手順	留意点
	幅(m)	長さ(m)	面積(m ²)					
①	1.0	10.0	10.0	内堀堀底	堀底の堆積状況を確認する。	人力掘削を基本とする。 但し、表土は機械掘削とする。	表土は小型重機にて掘削を行なう。表土より下層は人力にて検出面まで掘削する。平面図及び土層断面図を作成し、写真撮影を行なう。 石垣裾部の発掘については、根石据え付け高さ(根石上部)まで掘り下げ、平面図及び石垣立面図、土層断面図を作成し、写真撮影を行なう。	平成29年度調査により判明している基本層序を考慮し、慎重に掘削作業を行なう。
②	3.0	5.0	15.0	大天守石垣裾部	大天守台石垣裾部を発掘し、根石を確認する。			
③	1.0	10.0	10.0	内堀堀底	堀底の堆積状況を確認する。			
④	2.0	3.0	6.0	内堀堀底	堀底の堆積状況を確認する。			
⑤	2.0	3.0	6.0	内堀堀底	堀底の堆積状況を確認する。			
⑥	2.0	3.0	6.0	内堀堀底	堀底の堆積状況を確認する。			
⑦	1.0	13.0	13.0	御深井丸石垣裾部	御深井丸石垣裾部を発掘し、根石を確認する。			
⑧	2.0	3.0	6.0	内堀堀底	堀底の堆積状況を確認する。			

8か所 72.0

※注記

- ・掘削に伴う発生土は、調査区の脇に仮置きして、シートなどで養生を行う。
- ・調査終了後は遺構面を山砂で保護した後に埋め戻す。なお、埋め戻し材は掘削土に消石灰を重量比2%添加したものを使用する。
- ・石垣すぐそばについては根石・根石上の高さまで割栗石を組み叩き込み、掘削土に消石灰を重量比2%添加した改良土を充填する。
- ・調査規模は、堆積土及び盛土の厚みや土の締め具合によって、作業時の安全確保を優先して縮小することもあり得る。
- ・使用重機 バックホウ

名古屋城本丸石垣発掘調査 調査予定位置図



- 凡例
- H31年度 追加調査予定位置8箇所(仮番号①~⑧)
 - H29年度 発掘調査(A~N)14箇所
 - H30年度 発掘調査(O~Q)3箇所
- U60 H135 石垣管理台帳の石垣管理番号
(名古屋城総合事務所による付与)